

バフ盤固定部品と展示台

芸術系 JEONG yeonkyung

はじめに

工作部門とは2017年にバフ盤固定部品を製作していただいたことが縁で何度も展示台製作のお願いしてきた。私が所属する芸術系の工房には様々な素材を用いて作品を制作する中で疑問に感じたことを、様々な実験を通して立証していくことを研究としている。研究を継続するためには、素材を扱う機材がスムーズに使えることと、完成した作品に見合った展示台は不可欠である。今回、この二つについて紹介したい。

1. バフ盤固定部品製作

バフ盤はガラス素材を研磨していく最終段階で使用する機材である。粘土などで原型を作り石膏型を取って電気炉で焼成し常温に戻すと、ガラスの表面は石膏と接していたため透明度が低い(図1)。透明度が低い面を番手の低い研磨剤から徐々に上げていき、最終のセリウムを染み込ませたバフ盤に当てると摩擦熱が起こることで透明になる(図2)。研磨前と比べ透明になったことで中身が透き通ってよく見えるためガラス造形の表現方法として研磨は利用されている。

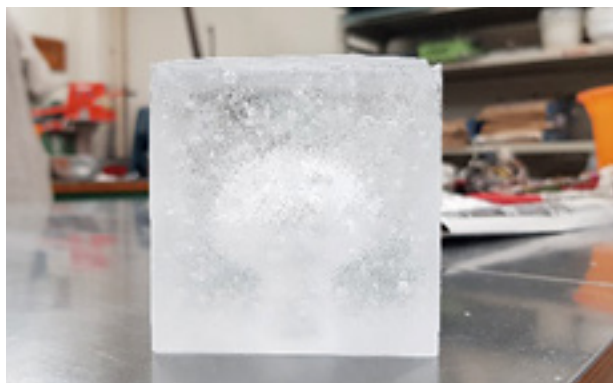


図1 石膏肌のガラス表面

ガラス素材のみならず、金属や大理石の仕上げは鏡面を作るためにバフ盤は必須である。ガラス工房にあるバフ盤(図3)は導入され15年以上年季の入った代物だが、金属の固定部品になるまでは木材を挟み(黄色く囲ったところ)ゆるくなったら楔(赤い矢印)で調整しながら使用してきた。しかし、長年使ってきたせいかバフ盤の回転振動で楔は緩くなることが多く、制作に支障をきたすようになったことから、振動の影響を受けずに固定できる部品製作を依頼した。漠然と固定部品を作っていたらと相談したが、私自身がイメージできそうな既製品があるわけでもなく参考になるような部品があるわけでもなかったため、工作部門に丸投げ状態であった。何度もガラス工房まで足を運んでいただき、機材や盤の位置測定、試作を試して調整をしていただき、完成された固定部品が図4である。

木材に直接回転盤軸を刺していたところは、ベアリングが受け止め柱を囲うように固定された。使用して2年経過するが、固定部品が設置されてから回転振動で緩むこともなくボルトの調整も必要ないほどしっかり固定されている(図5)。バフ盤の固

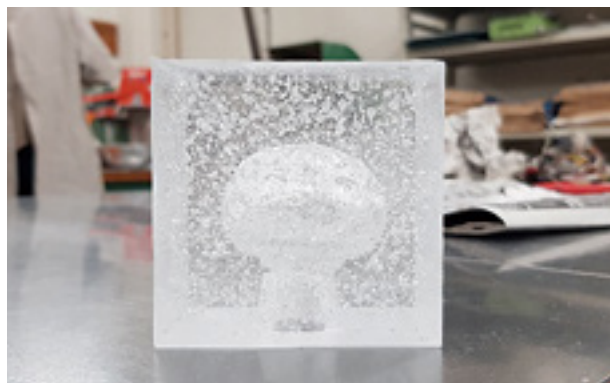


図2 研磨後の表面

定部品が安定していることで授業や卒業・修了制作、公開講座に支障なく使えるようになった。

2. 展示台製作

ガラス造形作品は光を透過する特徴を持っている

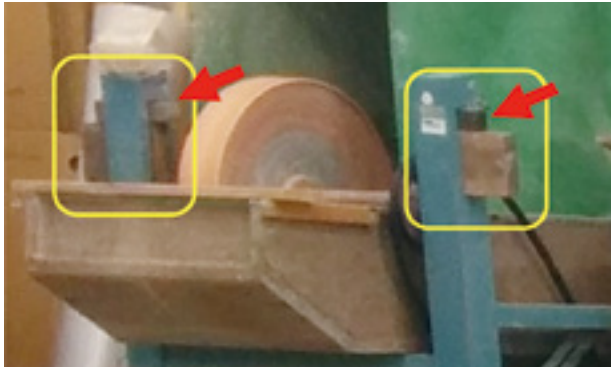


図3 木材の固定部品



図4 金属の固定部品



図5 固定部品のディテール

素材であるため、置く場所やライティングによって鑑賞時の印象が大きく変わる。展示場所を室内とした場合はライティングを調整することである程度作品の印象を決めることができるが、自然光が入る場所なら展示台の大きさや色、形状によって作品印象は大きく左右される。工作部門に依頼し、初めて製作していただいた展示台が図6である。20mmの鉄の角材を使用し天板より下は空間を開けて、圧迫感がないようにした。様々な作品を置く台として使用することも考慮し天板を2mmと薄いものにし脚と天板のバランスが崩れないように揃えた。角材を溶接で接合し、スプレー塗料を散布して仕上げた。展示台の色は作品によって様々な色に演出することもできるが、黒にすることで無難に使えるようにした。

図6の展示台は個体の作品を置く台として使用するが、グループで展示をする場合は展覧会のコンセプトによって揃えることも必要になる。図7の展



図6 角材を使用し製作された展示台



図7 ステンレス板を使用し製作された展示台

示台は授業で制作した作品を展示するために脚の部分を作成していただいた。個々のデザインは違うが、大きなテーマが揃っているため、全体の雰囲気を揃えつつ、かっちり決めすぎないように天板は柔らかい印象を与える木材と決めた。天板と脚を木材に揃えると天板を支えるための木材は太くなるため、テーブルのように見えてしまい鑑賞の妨げになる。天板の重さに耐える素材でありながら脚が太くならないようにステンレス板を選んだ。厚み3mmのステンレス板を幅50mmに切断し、接合部を溶接した。溶接部分を最低限に抑えることで、ステンレス板の後加工を施さずそのまま使用することができた。優れた技術で製作された展示台脚は木材と相まってすっきりした印象を与え作品を注視できる環境を作ることができた。天板には課題で制作された学生の作品が置かれ、全体でバランスの取れた良い展示空間を作ることができた。

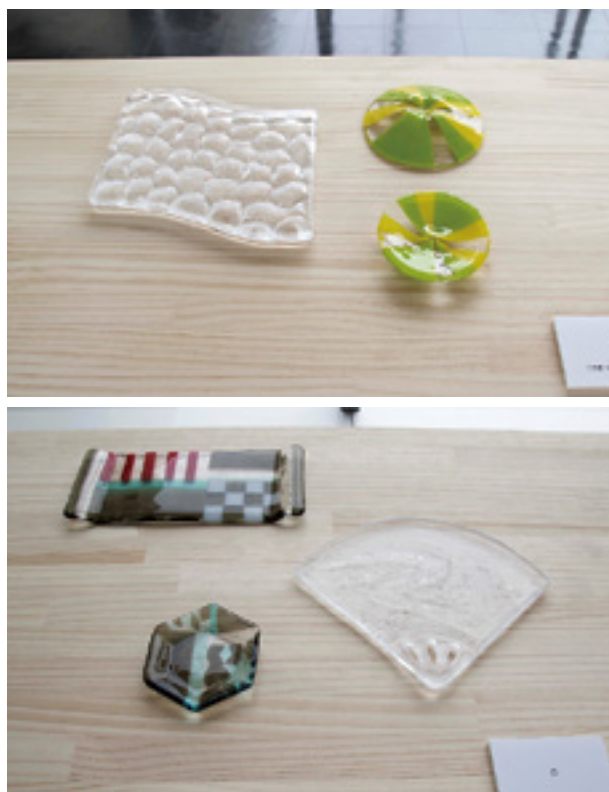


図8 学生の課題作品

おわりに

今回紹介した機材の部品については、作品そのものではないが作品を仕上げる際の大事な要素を担う機材をストレスなく使用することができて滞りなく潤滑に制作工程のスケジュールを組むことができた。展示台に関しては、鑑賞時作品に影響する様々な要因をできるだけそぎ取って製作していただいたおかげで満足いく展示空間を作ることができた。他にも作品のテストピースの相談をしていただくことや材料について教えていただくこともあるので、今後も作品を制作していく中で工作部門にはお世話になることがあると思われる。親身になってアドバイスいただいていたことをこの場を借りて感謝の気持ちをお伝えしたい。